

写真の撮り方・・・その① ホワイトバランス

太陽光や日陰、電球や蛍光灯など異なる光源によって起こる色かぶりを補正する機能。

「色温度」光源の色みを数値で表し、単位をK [ケルビン] と言う。

色温度は赤みの強い光源ほど数値は低く、青みの強い光源ほど数値は高くなることを覚えておこう。

ちなみにカメラの設定では、赤みの強い電球は 3000K、蛍光灯は 4000K、正午ごろの太陽光 5200K、曇り 6000K、日陰 7000K、の色温度を想定している。

AWB	オートホワイト バランス	光源に合わせて 自動的に調整する	+1	蛍光灯： 昼白色	昼白色の蛍光灯の 光に合わせる
	太陽光	晴天の屋外に合わせる	+2	蛍光灯： 昼光色	昼光色の蛍光灯の 光に合わせる
	日陰	晴天の屋外の 日陰に合わせる	WB 	フラッシュ	フラッシュ光に合わせる
	曇天	曇った屋外に合わせる	K 	色温度 & カラーフィルター	赤み・青みを強調する 等の任意の設定が可能
	電球	電球の光に合わせる		カスタム	より正確に白さを表現 するため、色あいを登録
-1	蛍光灯： 温白色	温白色の蛍光灯の 光に合わせる	SET	カスタム セット	基準になる白色を取得
0	蛍光灯： 白色	白色蛍光灯の 光に合わせる			

※ カメラのメニューでホワイトバランスを設定する（画面）



(A) オートホワイトバランス (AWB)

最近のカメラはホワイトバランス設定がしっかりしているので一般的撮影ではオートでも正しい発色を得ることができる。

仕組みを簡単に言えば、補色のフィルターを電気的にかけることで色かぶりを抑えること。

青 (B) の補色はイエロー (Y)、緑 (G) の補色はマゼンダ (M)、赤 (R) の補色はシアン (C) となっている。

(B) 太陽光モード

晴れた日の昼の自然な発色となる。風景写真の基本。

(C) 曇天モード

曇りの日の青暗い光の影響を和らげるため赤みをプラスしている。
朝焼けや夕焼けの風景写真に適している。

(D) 蛍光灯モード

蛍光灯の緑がかった光を和らげるため紫っぽい色をプラスしている。

(E) 電球モード

白熱灯の赤みがかった色を緩和するため青みをプラスしている。

(F) 白セット (マニュアル)

厳密に色を再現したい場合に使用され、撮影する光の下でカメラを白い紙に向けシャッターを切ることによってカメラに白を認識させます。
風景などの広い場面を撮る際には向かないことがある。

※ それぞれのWBモードで撮影した場合、出来上がりの違い



オート

白熱灯

蛍光灯



太陽光

曇日

日陰

【ホワイトバランス設定による色変化 (CANON EOS 5D Mark2)】



オート

白熱電球 (3200K)

白色蛍光灯 (4000K)



太陽光 (5200K)

くもり (6000K)

日陰 (7000K)

～～皆さんもWBモードを変えて実際に撮影してみましよう・・・～～